

セント・ルカ産婦人科

LUKE MAGAZINE 2005.12.No.12

St Luke

ルカ新聞



自由の女神像

柘さ
榴くろ

エデンの園でアダムはあらゆる家畜、空の鳥、野の獣に名前をつけたが自分に合う助けるものは見つかることができなかった。主なる神は言われた。「人が一人であるのはよくない。彼に合う助けるものを作ろう。」主なる神はアダムを深い眠りに落とされ、あばら骨の一部を抜き取り、それで女を作り上げられた。それをアダムのところに連れてくると彼は「これこそ私の骨の骨、私の肉の肉、これこそ女と呼ぼう、まさに男から取られたものだから。」こういうわけで男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。

創世記2章18節-24節

「赤ちゃんがほしい」という気持ちは本来に心の底からわきあがってくる、本能とも言うべき衝動です。ただこの本能的欲求はほかの食欲、睡眠欲、性欲などに比べ、その次の次元に属するものです。またそこで生まれてくる子供は夫婦と同じ次元のヒトとしての権利を持っています。ですから夫婦が子供をもつ権利があるといっても、子供も幸せになる権利があります。子供が不幸になる可能性のあることは避けるべきです。不妊治療は未来の子供のためにあります。夫婦になろうとして結婚したときのことを思い出し見ましよう。何も子供を授かるために結婚したのではないと思えます。「この人と楽しく暮らしたい」と思ったから結婚したのだと思います。その結果、楽しく暮らすことができ、さらに赤ちゃんがほしくなりました。そこで治療をしています、基本は夫婦で楽しく暮らすことです。その中で治療を捉えて見ましよう。夫婦でよく話し合ってみましよう。この基本に照らして今何をすべきか、何をしたいか、何を我慢するか。神様はちゃんと答えを見つけてくださいます。



生殖医療の質の向上のために

院長 宇津宮 隆史

今年は本当に忙しい年になりました。好きなスキューバ・ダイビングも山登りもほとんどできませんでした。たいていの休日は何らかの世話人会や理事会、学会、講演などでふさがっていました。ダイビングは3月の知床の流水の下に潜って以来お休みです。なぜかと考えたら、年齢的にもそのような役割が順送りでもって来たことに気づきました。責任ある時期に入ったわけですから。それと同時に、私たちの行って来たことの方角性が間違っていないとみなから認められてくるようになったということでもありましょう。それは不妊症診療というのは5つのチーム・ワーク(医、ナースと心理士、ラボ、泌尿器科医師、情報データ処理管理)と、3つの患者さんの側面(医学的側面、心理的心の側面、社会的側面)をサポートすることで成り立っていることです。医学的側面では毎年30-40題の国内、4題の国際学会発表、10-20編の論文、10回ほどの講演活動に加え、2月にオーストラリア生殖医療技術認定(RTAC)に合格、7月にはISO9001認証取得とスタッフの活躍で着実に成果を上げてきました。さらに来年4月の九州不妊学会の会長をおおせつかっております。これらはすべて当院の活動が患者さんを中心に回って来たことの証であり、それが正しかったといえるでしょう。また、心の面ではナースと心理士の活動でとくに妊娠困難と思われる患者さんに対するサポートに重点を置いてきましたが、その経験に基づいて来年3月には東京で行われる日本生殖医療心理カウンセリング学会の会長も勤めることになっています。ここではとくに患者さんをどのセクションでどのようなサポートをするか、とくに妊娠困難と思われる場合に

ポイントを絞って話し合う場にしたいと考えています。社会的側面では、もう3年にもなりましたが不妊治療の保険適用を実現するために国会請願のための署名活動を全国に呼びかけて行い、第4回目の請願を次期国会に提出する予定です。

また、患者さんのためには正確な情報を提供する義務があります。その意味で当院が独自に開発したコンピュータソフト「セラベース」は全国の先生方からその有用性を認められ、JISARTの標準ソフトに指定されています。当院の年報で報告するデータ、とくに妊娠率は正直で正確であると多くの先生方からご意見を寄せられています。そのためでしょうか、今年の日本不妊(生殖医療)学会総会では世界保健機構WHOが特別セミナーを開催し、そのセミナーでは日本から2人が発表しますが、公的レベルで成育医療センターの斉藤英和先生、プライベートクリニックレベルで私が発表者に指名されました。妊娠率などのデータ整理やデータ分析、発表などは一定の約束事の上で行うべきです。今はそれぞれ勝手にデータを整理し計算しており、中には妊娠率80%などと平気で掲示しているクリニックもあり、これでは患者さんが迷う原因になりますし、また新しい治療法の評価もできません。WHOセミナーではそのところを強調してお話したいと考えています。

この不妊症診療の分野はほかの医学の分野には無い独自のジャンルとチームワークが必要で、大切な側面が存在します。それらに対して一つ一つできるだけ患者さんのためになるよう、理想的な不妊診療の形を探って行きたいと思います。

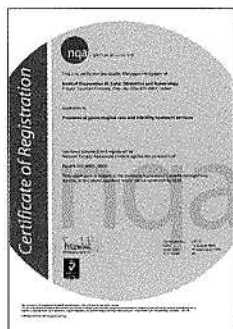
当院は生殖医療施設として2つの認証を取得しました!!

1) ISO9001とは? ISO9001:2000 取得



ISO 9001は品質管理及び品質保証のための国際標準モデルとしてISO（国際標準化機構）によって1987年に制定されました。（日本ではJIS）

セント・ルカ産婦人科では、「患者さんの夢の実現のため世界トップレベルの知識と技術と心を提供する」を方針にかけ、患者満足度向上のために日々努力しています。



2) JISART 施設認定審査とは？



認定審査の目的はART施設でガイドラインが順守されているかを確認するため、認定されることはその施設の医療の質がJISARTの定める医療標準に達していることを意味します。

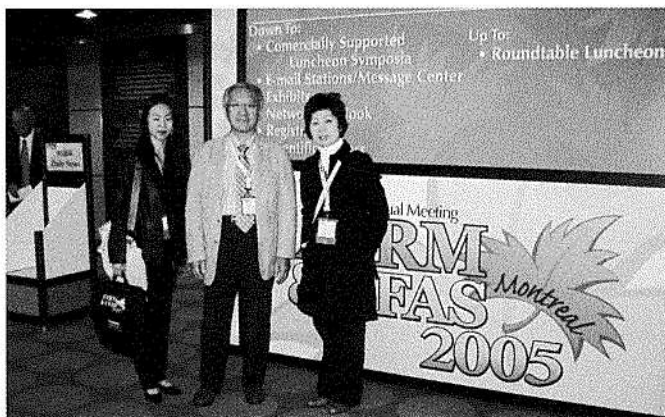
今回の認定審査はわが国では初めての試みで、公平を期するために、オーストラリアRTAC委員長であるSaunders教授等が、日本の施設に対する審査を実施し、その推薦によってJISARTより認定証を発行しました。

またJISART理事は科学者、看護師、患者代表と一緒に2004年9月にオーストラリアでのFSA-RTACによる審査に参加しています。

第1回JISART施設認定審査は2005年2月に日本全国で行われ10のJISART施設で認定されました。

アメリカ不妊学会(ASRM)に参加しました。

2005年10月17日～18日 モントリオール(カナダ)にて開催



以前当院のルカセミナーに来てくださったブルックスキル先生が私のポスターに興味を持ってくださり、いくつか質問をしてくださりました。

また、精子に関する興味深いポスター展示が幾つかあり、ますます視野を広げることができた学会でした。

日本から参加された先生方とのディスカッションの機会もあり、卵子のクオリティについて勉強することができました。

(城戸京子)



ポスター展示では、心理部門と看護部門に絞って理解することを努めました。

自分のポスターの前に置いておいた配布資料が残り1部になっていたため、このような国際学会で興味をもってくれた方がいたということだけでとてもうれしく思いました。

(門屋英子)



エドワーズ先生と



モントリオール市内

第12回 セント・ルカ セミナー開催

2005年8月28日 セント・ルカ生殖医療研究所にて行われました。

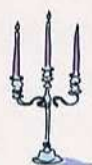
「ARTにおけるエンブリオロジストの役割」

高度生殖医療研究所所長
荒木 康久 先生



「女性の健康と血流」

医療法人ソフィア
ソフィアレディースクリニック院長
佐藤 芳昭 先生



「私にとっての不妊治療～今だから思うこと～」

—現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会—

NPO 法人 Fine
(Fertility Information Network)
代表 松本 亜樹子さん



「多嚢胞卵巣症候群の現況と今後の課題」

醍醐渡邊クリニック不妊センター長
京都大学名誉教授
森 崇英 先生



先生方の最先端のお話を聞くことができ、貴重なセミナーとなりました。また、不妊治療を経験された松本さんの感動的なお話を聞くことで、心理的サポートの必要性を改めて感じました。

ルカセミナー懇親会



院長 荒木先生 松本さん 森先生 佐藤先生 宮川先生

研究室だより

着床前診断ってなに？

研究室 大津 英子

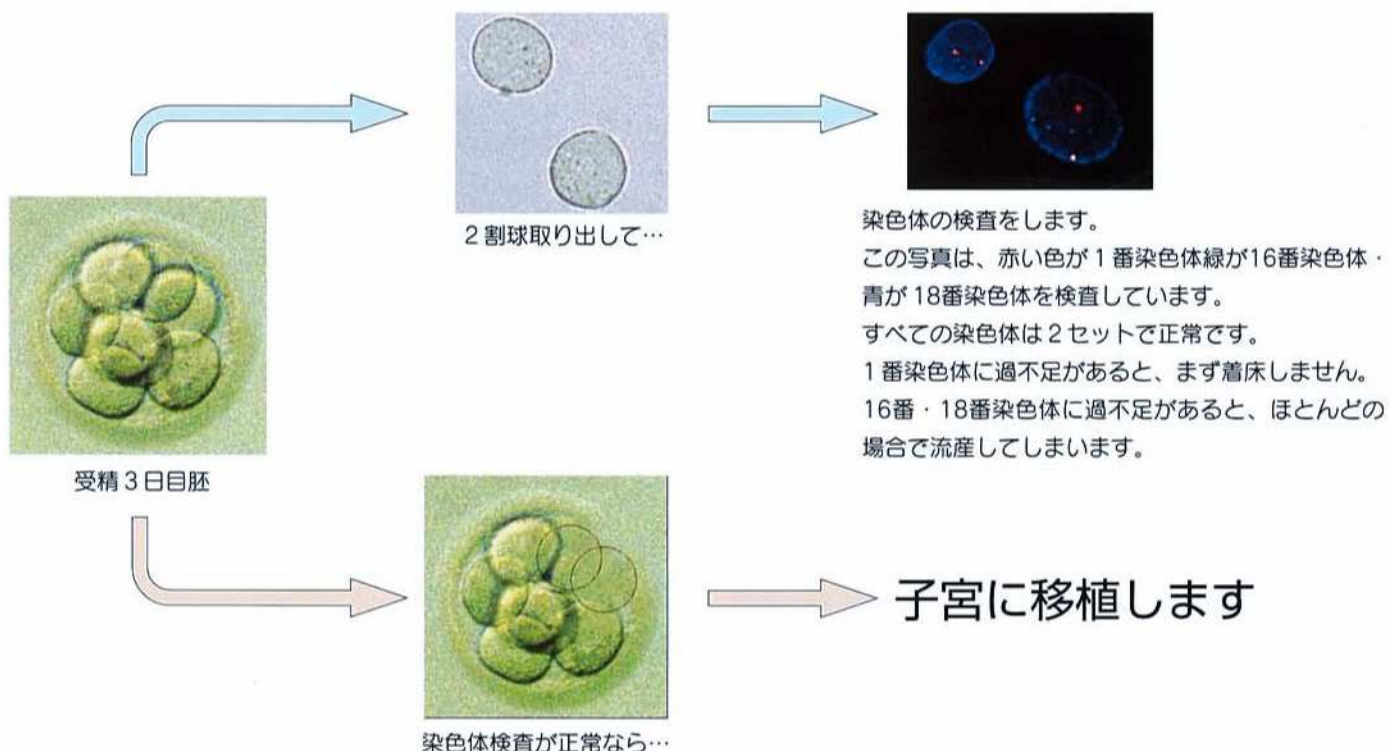
今、巷で話題の着床前診断は、1989年にイギリスで初めて行われました。当初は、特定の遺伝性疾患を対象に行われていました。従来から行われている出生前診断(羊水検査や絨毛検査)は、妊娠成立後に行われるため、いくつかの問題を含んでいます。着床前診断を行うことにより、これらの問題を回避することができます。

現在海外では、疾患に関わらず着床率を上げ、流産率を下げる目的で広く行われるようになってきました。日本では、重篤な疾患のみに認められていますが、染色体異常での流産を繰り返す反復流産患者などにも認められるよう議論されています。

着床前診断の方法はいくつかありますが、一般的な方法は、体外受精後3日目の胚(おおよそ8個の細胞に分裂)から2細胞とりだし、染色体検査を行います。

検査の結果、正常の場合残ったおおよそ6割球の胚を、培養後子宮に移植します(下図)。

2割球取り除いて残った6割球だけでも、その後の発育には遜色なく、検査することにより妊娠継続の可能性のより高い胚を子宮に移植することができます。すでにこの方法で世界的には、1,000人以上の赤ちゃんが生まれています。



当院のデータでも早期流産の50~80%は、染色体異常での流産です。また、着床できない胚のほとんどが染色体異常であるといわれています。着床前診断を行うことで体外受精反復不成功をふせげるかもしれません。

しかし、同一胚内の割球でも、違う染色体をもっている胚も多く存在するため、診断が難しいケースも考えられます。当院では、この問題を解決すべく研究を行っています。(2001.日本受精着床学会、2001.日本不妊学会、2003.日本不妊学会、2005.日本受精着床学会、2005.日本不妊学会にて発表)

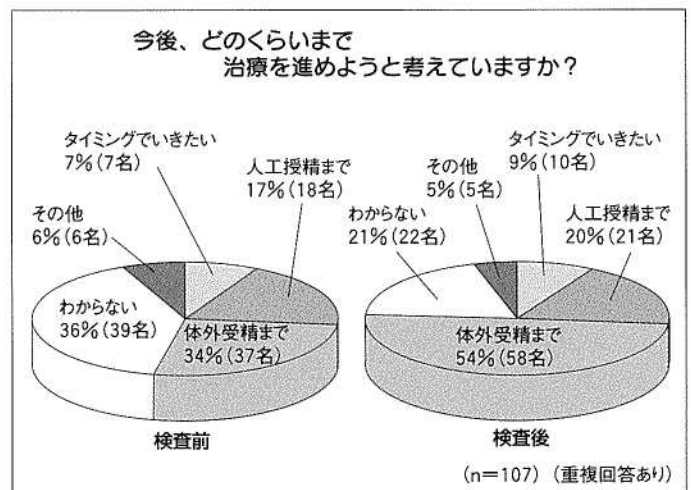
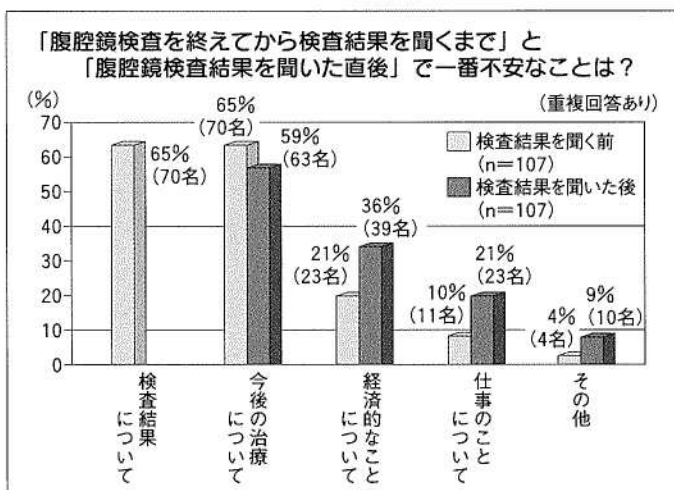
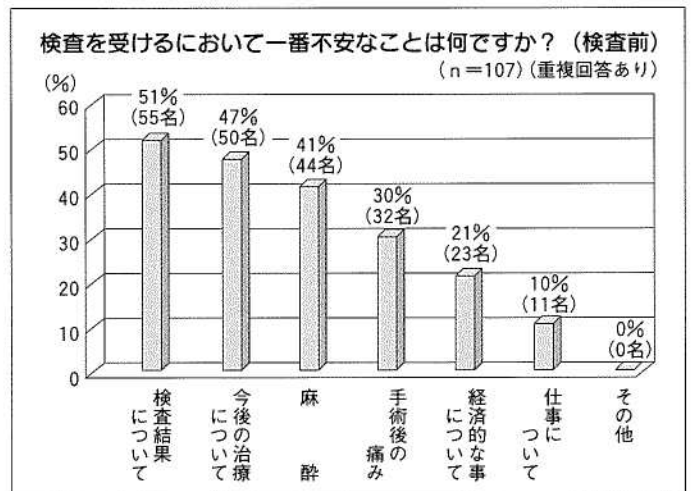
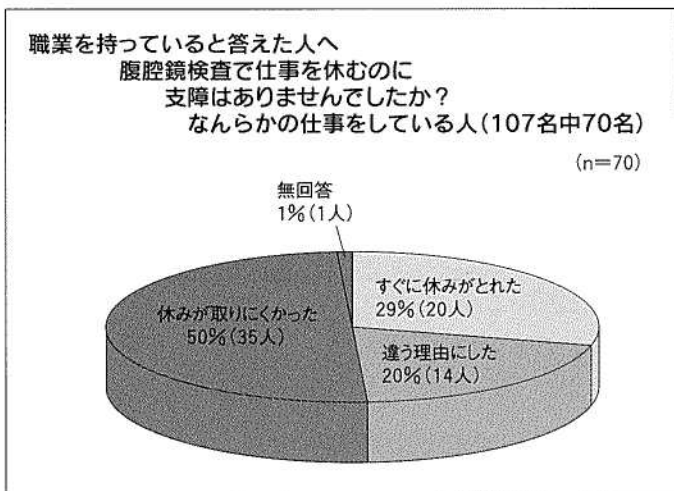
看護部だより

～不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理～

看護部 河野 絢子

腹腔鏡検査は、従来から不妊症の診断において不可欠なものとされており、当院でも多数の患者さんが腹腔鏡検査を受けられています。今回腹腔鏡検査を受ける患者さんの検査前後の心理状態を知るため質問紙調査を行ったので報告します。

●期間：2005年3月4日～2005年10月21日



質問紙調査により、仕事をしながら治療を継続している方が多く、休みを取るにも大変苦労しているということがわかりました。また、患者さんは腹腔鏡検査前後にさまざまな不安を抱いていることがわかりました。グラフでわかるように、腹腔鏡検査前では今後どのくらいまで治療を進めたいか「わからない」状態だったものが検査後の説明を聞くことで、「体外受精まで」という夫婦の意思が明確になった事を考えると患者さんの意思決定には十分な情報提供が必要であり、さまざまな不安に応じて医療者は連携し、心理的サポートを行っていくことが重要であることを再認識しました。

今回の結果を元に、今後の患者さんへのサポートに役立てていきたいと思っております。

ご協力ありがとうございました。



心理相談室より

心理士 上野桂子

心理士の相談以外にも院長、看護師の相談があります。いつでもお気軽にご利用ください。

心理士相談……火、金、土曜日（予約制）

何でも相談……随時、主に土曜日 午後（予約制）

院長相談……月、水、金 夕方（予約制）

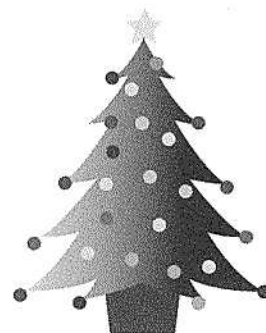
外来相談……随時、外来の相談係り

その他に下記のサークルも行っています。

ガーネットサークル……3ヶ月に一度。当院の卒業生と治療中の患者さんとの会

オリーブの会……1～3ヶ月に一度。40歳以上の方を対象にした会

看護師又は受付に
申し出て下さい。



受付より

患者の皆様、**掲示板**を利用されていますか？

たとえば現在はガーネットサークル（当院の卒業生を交え、同じ治療段階の患者さん同士でお茶を飲みながら会話を楽しむ会）の記事が中待合室に掲示されています。お読みになった事がありますか？当院の掲示板には患者さん方にお知らせしたい事がたくさん掲示されていますが、患者さん方は案外掲示物を見落とされているようでとても残念です。患者さんにとって重

要な情報もありますし、各部署の担当が一番新しい情報をお知らせしています。待ち時間の間に、毎回チェックをして下さい。皆さんのお役に立てる事がきっとあると思います。

最後に…**休診の掲示**も忘れずにみて下さい☆**受付と玄関**に掲示しています。

受付 越名 久美

NEW
職員紹介



看護部
酒井 操

初めまして、酒井 操と申します。

ご縁がありまして、10月から勤めさせていただいております。

不妊治療の経験も知識もありませんが、自らの体のことでもある専門分野の内容に改めて感心し、いい刺激を受けていることを感じます。

まだまだ不慣れと勉強不足でスタッフの方々に日々、迷惑をかけておりますが、自分なりに精一杯努力していきたいと思っております。

よろしくお願い致します。

2005年後期を振り返って

<p>07.02 第4回 第3期オープンの会 参加者3名</p> <p>07.03 生殖心理カウンセリング研究会 世話人会 (東京) 参加 (院長)</p> <p>07.04 ART 女性クリニック (熊本) 小山伸夫先生・中田潔美さん 院内見学・研修のため御来院</p> <p>07.05 ISO9001内部監査 日本 LCA 田中氏御来院</p> <p>07.06 IVF なんばクリニック (大阪) エンブリオロジスト 辻陽子先生・ブルービジョン 三井啓氏 Sarah Base 見学のため御来院</p> <p>07.09 第1回 島根不妊・内分泌研究会 (島根) 講演: 「不妊治療をめぐる当院の経験と最近の話題」 (院長)</p> <p>07.09 第8回 第1期・第2期 合同オープンの会 参加者3名</p> <p>07.12 ISO9001本審査 NQA-JAPAN 岡角氏、川谷氏、富野氏御来院</p> <p>07.13 大分県立看護科学大学の講義 参加 (平松、工藤由、越名、那須、柴田、指山、根岸) 講義: 「不妊症講座」 (院長)</p> <p>07.16 第23回 「赤ちゃん～今ならきつと授かる～」講座 参加者53名 参加 (越名、平井、河野、江藤、越光、森田、指山、根岸)</p> <p>07.18 NHK ラジオ第一放送ホリデージャーナル～赤ちゃんが欲しい不妊治療2005～ 出演 (院長)</p> <p>07.19 第78回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>07.19 ART 女性クリニック (熊本) 森川絵里香さん 研修のため御来院</p> <p>07.23 A-PART (東京) 参加 (佐藤島、大津、院長)</p> <p>07.24 生殖ハイオロジー東京シンポジウム (東京) 参加 (佐藤島、大津、院長)</p> <p>07.30 シンポジウム: 「着床前診断の有用性」 (大津英子) 参加 (二宮、門屋、松元、原井、指山、上野、院長)</p> <p>07.30 第99回 体外受精教室 参加者39名 参加 (斉高、足立直、恵良)</p> <p>08.02 自家発電機 (停電時非常用) 設置</p> <p>08.04 第23回 日本受精着床学会総会・学術講演会 (大阪) 参加 (佐藤島、平井、根岸) Round Table Discussion 「Poor Responder をどう扱うか」 座長 (院長) 「不妊治療における心理カウンセリングの実践」座長 (上野桂子) 市民公開講座: 「生殖医療費の公的負担について」 (院長) シンポジウム: 「着床前診断の有用性」 (大津英子) 発表: 「ヒト卵・卵丘細胞複合体の形態像と卵子の体外成熟能・発生能との相関」 (佐藤千賀子) 「体外受精妊娠困難例における逆行性精巣上体精子吸引法により採取された精巣上体精子を用いた卵細胞質内精子注入法の新しい試み」 (城戸京子) 「ウレアプラズマ感染が生殖補助医療 (ART) に及ぼす影響」 (長木美幸) 「男性患者の不妊治療に対する意識調査～初診時～」 (恵良郁絵) 「治療最終期の意思決定に対する患者の心理～妊娠に至らず治療最終を決定した元患者を囲んで～」 (上野桂子)</p> <p>08.09 第79回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>08.09 ごが病院 (大分) 橋口マリさん 研修のため御来院</p> <p>08.13 第9回 新患教室 参加者22名 参加 (熊迫、森田、河野)</p> <p>08.15 BS EN ISO9001:2000認証取得</p> <p>08.19 第2回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座 (東京) 参加 (上野)</p> <p>08.20 第100回 体外受精教室 参加者29名 参加 (佐藤島、斉高、足立直)</p> <p>08.27 セント・ルカセミナー懇親会 (別府)</p> <p>08.28 第12回 セント・ルカセミナー 講師 荒木 康久先生 (高度生殖医療技術研究所所長) 「ART におけるエンブリオロジストの役割」 講師 佐藤 芳昭先生 (ソフィアレディスクリニック院長) 「女性の健康と血流」 講師 松本 亜樹子さん (Fine (Fertility information Network) 代表) 「私にとっての不妊治療～今だから思うこと～」 講師 森 崇英先生 (産科産科クリニック不妊センター長、京都大学名誉教授) 「多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS)」</p> <p>09.03 日本生殖医療標準化機関 (JISART) ミーティング (東京) 参加 (院長)</p> <p>09.03 第5回 第3期オープンの会 参加者5名</p> <p>09.10 第10回 新患教室 参加者34名 参加 (平井、河野、江藤)</p> <p>09.10 第26回 ガーネットサークル OGI 1名、参加者5名</p> <p>09.12 Sarah Base 専任打ち合わせ及びデモンストレーション 山下レディースクリニック (神戸)、越田クリニック (大阪)、いしかわクリニック (大阪)、 IVF なんばクリニック (大阪)、醍醐産科クリニック (京都)、IVF 大阪クリニック (大阪)、 参加 (工藤由)</p> <p>09.17 第8回 日本 IVF 研究会 (大阪) 参加 (那須、佐藤千)</p> <p>09.20 日本 LCA 田中氏御来院</p> <p>09.20 ISO9001認証取得祝賀会 (大分)</p> <p>09.24 第101回 体外受精教室 参加者42名 参加 (城戸、河野、斉高)</p> <p>09.27 第80回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>09.30 第22回 大分市医師会産婦人科～内分、不妊・代謝～懇話会 参加 (平松、梅田、工藤由、足立小、越名、佐藤島、佐藤千、熊迫、大津、三重野、 二宮、足立直、松元、原、森田、江藤、越光、原井、柴田、指山) 「多嚢胞性卵巣症候群の病態と治療」 (徳島大学 産科婦人科学 教授 吉原稔先生)</p> <p>10.01 第9回 第1期・第2期合同オープンの会 参加者2名</p> <p>10.03 ウィメンズクリニック大分学園 (東京) 池田千秋先生、石川道夫さん SarahBase 見学のため御来院</p> <p>10.08 第102回 体外受精教室 参加者22名 参加 (佐藤千、酒井、足立直、斉高)</p> <p>10.08 第6回 第3期オープンの会</p> <p>10.08 アルメイダ病院 第44回 QC 発表大会 参加者5名 参加 (渡邊、佐藤島、平井、恵良、柴田)</p> <p>10.11 第81回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p>	<p>10.15 Conjoint Annual Meeting ASRM/CFAS 2005(CANADA Montreal) 参加 (院長) 発表: 「New approach of intracytoplasmic sperm injection with epididymal sperm by retrograde epididymal sperm aspiration for multiple failures in ART」 (城戸京子) 「Emotional status of infertility patients who consider the termination of reproductive treatment」 (門屋英子)</p> <p>10.17 IICO Business Meeting(CANADA Montreal) 参加 (院長)</p> <p>10.22 第24回 「赤ちゃん～今ならきつと授かる～」講座 参加者66名 参加 (足立小、大津、森田、酒井、河野、江藤、指山、上野)</p> <p>10.24 島根大学医学部産婦人科 金崎春彦先生院内研修のため御来院 (～30日まで)</p> <p>10.28 第3回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座 (東京) 参加 (上野)</p> <p>10.29 ウィメンズ・クリニック大分学園内懇話会 (東京) 参加 (院長)</p> <p>10.31 島根大学医学部産婦人科 折出亜希先生院内研修のため御来院 (～6日まで)</p> <p>11.01 第1回 セント・ルカ産婦人科・倫理委員会 倫理委員: 上野徳美先生 (大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、 大塚三千代先生 (大分大学医学部附属病院 看護部長)、 緒方俊一先生 (おがた泌尿器科医院 院長)、 指山美千代 (セント・ルカ産婦人科 看護部長) 野村陽一先生 (日本福音ルーテル大分教会 牧師) (あいいうお願) オブザーバー: 有馬隆博 (九州大学生体防衛医学研究所附属病院)</p> <p>11.05 JISART 倫理委員会 (東京) 参加 (院長、有馬隆博先生)</p> <p>11.07 島根大学医学部産婦人科 平野博士先生院内研修のため御来院 (～13日まで)</p> <p>11.08 第82回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院</p> <p>11.12 第7回 第3期オープンの会 参加者6名</p> <p>11.12 第103回 体外受精教室 参加者49名 参加 (長木、足立直、斉高)</p> <p>11.16 第50回 日本不妊学会 (熊本) 参加 (那須、城戸、大津) WHO: ICMART セミナー 「Data presentation and dissemination Clinical level」 (院長) 口頭発表: 「ヒト卵・卵丘細胞複合体の形態像と卵子の体外成熟能・発生能との相関」 (佐藤千賀子) 「ヒト初期胚における卵球大小不同と染色体異常の関係」 (佐藤島子) 「治療最終期の意思決定に対する患者の心理～妊娠に至らず治療最終を決定した元患者を囲んで～」 (上野桂子) ポスター発表: 「ヒト卵丘細胞卵母細胞複合体 (COC) の成熟に及ぼす FSH プライミングの意義」 (熊迫陽子) 「治療最終期の意思決定に対する患者の心理～治療最終に関する質問紙調査から～」 (門屋英子) 「男性患者の意識調査～初診時、腹腔鏡検査 (ラパロ) 付き添い時、IVF 施行時を比較して～」 (恵良郁絵)</p> <p>11.16 第50回 日本不妊学会 SarahBase プース展示 (熊本) (平松、工藤由)</p> <p>11.17 日本生殖心理カウンセリング学会理事会 (熊本) 参加 (上野、院長)</p> <p>11.17 第36回 大分市医師会医学会 発表: 「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」 (河野鞠子) 「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査～男性因子の夫を持つ妻の気持ちについて～」 (赤瀬佳枝)</p> <p>11.19 日本不妊学会生殖医療指導医認定試験 (熊本) 参加 (院長)</p> <p>11.24 金沢医科大学特別講義 (石川) 講義: 「生命の始まりの神秘と環境」 (院長)</p> <p>11.26 第11回 新患教室 参加者56名 参加 (城戸、河野、江藤、指山)</p> <p>11.26 日本生殖医療標準化機関 (JISART) ミーティング (大分) 参加 (院長)</p> <p>11.26 DI 研究会 非配偶者間人工授精で生まれた人の自助グループ設立記念講演会 (東京) 参加 (佐藤島、柴田)</p> <p>11.27 第10回 FROM 総会 (東京) 参加 (佐藤島、柴田)</p> <p>11.29 おがた泌尿器科医院よりミーティング見学 園田久世さん、大崎由美さん</p> <p>12.04 生殖エンジニアリング研究会 (東京) 参加 (那須、大津、院長)</p> <p>12.10 第12回 新患教室</p> <p>12.10 医療法人セント・ルカ忘年会</p> <p>12.15 大分県立看護科学大学講義 講師 (上野、院長) 講義: 「不妊症講座～心理とサポート～」 (上野桂子) 「不妊症講座」 (院長)</p> <p>12.17 第104回 体外受精教室</p> <p>12.24 クリスマス会</p> <p>著書 <院長> 「赤ちゃんがやってくる はやく気づいて! 不妊症」 (有限会社メディテック・ルカ) 「ART 治療の経済的負担と公的支援」 「コメディカルのための ART マニュアル」 (永井書店) (印刷中) 「胚の凍結保存法」 「臨床婦人科産科」 (医学書院) (掲載予定) <上野桂子> 「生殖医療のグループカウンセリング」 「高齢患者に対するカウンセリング」 「コメディカルのための ART マニュアル」 (永井書店) (印刷中) <公文麻美> 「胚盤胞培養」 「コメディカルのための ART マニュアル」 (永井書店) (印刷中)</p> <p>論文 <院長> 「Developmentally retarded frozen blastocysts can be rescued by synchronizing culture prior to transfer」 Reprod.Bio.Med. (投稿中) <上野桂子> 「不妊症患者の心理的ストレスとサポートグループ介入の効果」 臨床心理学 (投稿中) <熊迫陽子> 「Successful pregnancy after the vitrification of zygotes using commercial vitrification solutions and conventional straw to protect from infections in the liquid of nitrogen」 J Assist Reprod Genet (Vol.22, No.1 January 2005) <公文麻美> 「体外受精後未受精卵であった前核形成阻害の原因解析」 日本受精着床学会雑誌 (投稿中)</p>
--	---

妊娠報告件数

(2005.6.1～2005.11.30)

体外受精・顕微授精等

68件

*

その他(体外受精以外)

117件

計 185件

編集後記

毎年思うことですが、早いもので2005年も終わろうとしています。年々、時の経つのが早く感じられるようになってきたのも、自分の歳のせいでしょうか。今年の汚れは今年のうちに、今年の仕事は今年のうちに……。来年に持ち越すことなく1年をしめくりたいものです。

2005年は、研究室から海外学会に2回も参加することができて、大変充実した1年だったと思います。来年もますます有意義な1年になるとよいと思います。(Y.K)



NYトレードセンター跡にて